

淡路新地域ビジョン骨子（案）

第1章 新地域ビジョン策定の趣旨

淡路地域ビジョンの策定から20年、改訂から10年が経過する中で、深刻な少子高齢・人口減少社会、技術革新の急速な進歩など社会が大きく変化している。

これらの変化を見据えて、今後の淡路地域づくりの方向性を県民とともに考え直し、新たな淡路地域の将来ビジョンを策定する。

展望年次：2050年

第2章 淡路地域ビジョン策定以降の主な取組

2001年の淡路地域ビジョン策定以降、淡路地域ビジョン委員会を中心に、多くの住民の「参画と協働」のもと、ビジョンの実現に向けて様々な取組を実施してきた。

1 当初ビジョン（2001年2月策定） 展望年次：2030年頃

【目標】人と自然の豊かな調和を目指す環境立島「公園島淡路」

実践目標1：花いっぱいの美しい島	実践目標2：文化が広がる島
実践目標3：人を育む島	実践目標4：魅力ある産業を興す島
実践目標5：安全で安心な島	実践目標6：心あふれる交流の島

【主な取組】

- ・あわじ菜の花エコプロジェクトの推進
- ・淡路島「地域学習」の推進
- ・安全・安心な農林水産物の生産とブランド化の推進
- ・「食の宝島」大作戦の展開
- ・あわじオープンガーデンの開催
- ・淡路島フェスティバル～エンデ・ワールド～の開催

2 改訂ビジョン（2011年12月改訂） 展望年次：2040年頃

【目標】環境立島あわじ ～人と自然の豊かな関係をきずく“公園島”～

実践目標1：誰もが役割を持ち、地域の宝が生きる島づくり
実践目標2：個性と活力にあふれ、新たな価値を生み出す島づくり
実践目標3：自然とのつき合い方を再考し、その恵みに支えられた島づくり
実践目標4：経済、社会、環境が調和し、命をつなぐ島づくり

【主な取組】

- ・障害者スポーツの推進
- ・淡路島ビーチクリーンの開催
- ・里山セミナーの開催
- ・渦潮の世界遺産登録推進活動の展開
- ・くにうみ夢フォーラムの開催

第3章 社会潮流

※将来構想試案等から引用

1 人口減少・超高齢化

(1) 総人口の減少

本格的な人口減少時代に突入。推計によると、2050年の県人口は2015年に比べて130万人減の423万人となる。

合計特殊出生率が人口の維持に必要な水準(2.07)を下回る限り、今後も長期にわたり減少。

(2) 人口の偏在化

地球規模で進む「都市化」の反面、地方の「無人化」が進んでいる。一方で、コロナ禍を契機に東京一極集中から地方回帰への変化の兆しが見られる。

(3) 超高齢化

少子化と平均寿命の延伸により人口のますます多くを高齢者が占めるようになる。健康志向の高まりや医療技術の進展によりさらに寿命が延び、人生100年時代が到来する。

2 自然の脅威

(1) 気候変動

地球規模で温暖化が進行。地球温暖化に伴う気候変動は、自然災害のリスクの増大、自然生態系の変化、人々の生活リスクの増加など、人類の生存への最大のリスクとなる可能性がある。

(2) 災害の危機

被害が激甚化している台風や集中豪雨。新型インフルエンザや新型コロナウイルス感染症など未知の感染症。さらには、今後30年以内に高い確率で発生が予測されている南海トラフ地震など、今後も私たちの暮らしは常に自然災害の脅威と隣り合わせにある。

3 テクノロジーの進化

(1) 未来のテクノロジー

ICT技術の目覚ましい進歩により、自動運転の普及やドローンでの移動、AIやロボット技術の応用など、未来のテクノロジーが社会や暮らしのあり方を大きく変える。

(2) データの最大活用

IoTが幅広い分野に拡大し、あらゆるモノがネットにつながる社会になっている。今後もAIやIoT等のデジタル技術は急速に進化し、地域の課題解決や一人ひとりに適したサービスの提供が実現する。

4 世界の成長と一体化

(1) 大きくなる世界

アジア、アフリカを中心に今後も成長が続き、人口も経済もまだまだ発展する国々がある。一方で、“GAF A”のような世界を代表するプラットフォーマーの前では日本が誇る製造業の存在は小さい。

今後、世界との結びつきを深めていくことが、ますます求められる時代になる。

(2) 一つになる世界

インターネットで世界が一つに結ばれ、情報の流通が勢いを増している。スマートフォンにより世界中の人々がインターネットで結ばれる時代が来る。

5 経済構造の変容

(1) デジタル化の進展

経済のデジタル化が進み、企業のビジネスモデルに大きな変化をもたらしている。ICTの発展によりあらゆる情報がデジタル化され、情報のやりとりのコストがほぼゼロになる。また、経済のデジタル化は新たな価値を創出し、時間・場所・規模の制約を超えて様々な経済活動が可能になる。

(2) 資本主義のゆくえ

新自由主義や株主資本主義の台頭のもと経済格差が拡大する中で、社会貢献を使命とする公益資本主義の潮流が生まれている。また、各人が自由に平等な取引を行う共有型経済や、労働者たちが共同で出資・経営し働くワーカーズコープも広がりつつある。

6 価値観・行動の変化

(1) サステナブル志向の台頭

将来世代や地球の未来に対する責任を背景に、「SDGs」が世界の共通言語に。持続可能性を重視する価値観やライフスタイルが広がりを見せている。

(2) 固定から流動へ

テレワークの浸透などにより、住む場所や働く場所の制約が消えつつある。都市と地方を往来する二地域居住はコロナ禍によってさらに人気のスタイルとなっている。

また、一つの場所に住むという概念が崩れワーケーションやノマドワークなどの移動しながら働くスタイルも広がっている。

第4章 淡路地域の課題

1 社会の課題

(1) 人口減少、少子高齢化

淡路地域では若者が地域外に流出し、少子・超高齢化が進んでいる。淡路地域の老年人口比率は2010年の30.1%から2020年には37.5%に増加している。また、高校生は2010年から2020年の間で23.9%減少している。

背景には、寿命の延伸、未婚率の上昇、価値観の多様化など多くの原因が複雑に絡んでいる。加えて淡路島内では高等教育の機会が少なく都市部に近いといった要因で若者が流出し、その後も、子育て環境や娯楽の不足といった要因から淡路島に戻って来ないという現状がある。

〈人口減少、少子高齢化がもたらす課題〉

- ①生産人口の減少
- ②土地の荒廃、空き家の増加
- ③コミュニティの維持困難
- ④伝統芸能、文化の後継者不足
- ⑤地域の働き手不足による海外労働者への依存
- ⑥交通弱者の増加

(2) 格差拡大と分断に伴う課題

都市との格差の拡大や社会構成員間の格差の拡大、つながりの喪失により、人口流出とコミュニティの弱体化が加速している。これらは、地域が自ら課題に対処する力をも奪っている。

格差の例として、淡路地域の一人当たり市民所得は兵庫県全体の8割程度で推移している。また、人口10万人当たりの自殺率は兵庫県全体を上回る率で推移している。下水道の普及率においても兵庫県全体より4割以上低い。

〈格差拡大と分断がもたらす課題〉

- ①医療福祉への不安
- ②教育格差
- ③社会的孤立や自殺の増加

2 経済の課題

(1) 地域経済の衰退

少子高齢化と人口減少による購買力の低下、高度な知識・技術を持つ人材の流出、地場産業の後継者不足を背景として、地域経済・産業の衰退が進んでいる。

〈地域経済の衰退がもたらす課題〉

- ①瓦、線香等の地場産業の衰退
- ②農・漁業の後継者不足問題
- ③地元商店の衰退

(2) 地域の資金、資産の流出

今後、淡路島に住む高齢者が亡くなった場合、相続資産が都市部に住む子世代に流出していくという大相続時代を迎えることが予想される。

また、淡路島にあるメガソーラーの多くは、外部企業が地域外に送電するものであり、地域に還元される利益が大きいとは言えない。豊富なエネルギーを有しながらエネルギー費を地域外に支払い続けている現状は、地域内自立循環型社会の構築にとって大きな課題である。

3 環境の課題

(1) 山林の荒廃、放置竹林の増加と獣害

淡路島では、近年の過疎高齢化による森の放置で、様々な森林生態系の崩壊が進んでいる。特に外来種の放置竹林の増加は、里山景観を劣化させ、野生動物被害の温床となるなどの問題が指摘されている。

また、人間の生活圏にも出没し、農作物被害をもたらしている。

(2) 自然災害

異常気象による集中豪雨や台風による被害が頻発するようになり、これまでの治水・利水では対応しきれない規模になっている。淡路地域は日本一のため池数を誇り、これらの活用方法や管理方法を検討する必要がある。

また、今後 30 年以内に発生が予想されている南海トラフ地震では、島内各地で津波による被害が想定される。ハード整備に加えて地域コミュニティの相互扶助による対応が大事になる。

(3) インフラの維持管理

上水道や道路、橋などの社会インフラが次々と寿命を迎える。人口減少やデジタル化など社会の変化に応じて新技術の活用や地域住民が協力してインフラの維持管理に取り組む必要がある。

(4) 景観、風景の質

淡路島ではこれまで「環境立島あわじ」、「公園島」という目標を掲げて花と緑にあふれる淡路島を目指してきた。

しかしながら、まだまだ島全体が街並みや田園風景と調和した美しい自然景観であるとはいえない。今後も緑被率、緑視率なども配慮した街づくりが課題となる。

また、周囲を海に囲まれていることから発生する漂着ごみや観光客の増加に伴う観光ごみへの対策も淡路島らしい景観、風景を守り続けるための課題である。

第5章 淡路島がめざすビジョン

『 わかりやすいスローガン 』 “食いっぱぐれのない島”

- ▶ 人と自然の豊かな調和をめざす環境立島「公園島淡路」
- ▶ 環境立島あわじ ～人と自然の豊かな関係をきずく”公園島”へ～
- ▶ 豊かな自然とやさしさあふれる暮らし共創都市・洲本 ▶ いつかきっと帰りたくなる街づくり
- ▶ だから住みたい南あわじ ～人がつながる 笑顔あふれる ふるさとづくり～
- ▶ 自然豊かな温故知新を体感できるまち ▶ 住んでよし 訪れてよし 健康と癒しの島 ○○

第6章 淡路新地域ビジョンの目標

目標1 豊かな自然・資源を大切に作る島づくり

豊かな自然や淡路島らしい田舎を復活させ次世代に引き継ぐ。豊かな自然環境や生物多様性などの淡路島らしい景観が人々の暮らしに豊かさと癒しをもたらす島をめざす。

(1) 森・里・海の再生による豊かな自然があふれる島



- ・山林保全や放置竹林の整備などによる持続可能な里山環境の復活。
- ・森、里、海の連携した生態系の保全と再生により、生物多様性や美しい海岸線、緑豊かな里山に恵まれた景観が復活。
- ・豊かな自然や淡路島らしい景観を活かした農林水産物・畜産物のブランド化による産業の発展。

[検討委員会及び意見交換会での主な意見]

- 自然環境の豊かさは農産物のブランディングのネタになり持続的にお金に換えることができる（検討委員会）
- 食の豊かさや風景など、全体を支えているのは豊かな自然である（検討委員会）
- 手入れされた自然環境が少ない（語る会：主婦）
- 綺麗な海や川、自然、景観を残したい。今と変わらない田舎を守りたい（高校生）
- コンクリートばかりの景観でなく、自然を楽しめる地域に住みたい（高校生）
- 海と山が美しい自然と暮らす（夢フォーラム）

(2) 環境に優しい暮らしが実現する島



- ・淡路島が持つポテンシャルを最大限に活かした自然エネルギーの自給自足。
- ・自転車交通や自動運転の交通網を整備し、多様な交通手段の確保とエネルギー消費の削減。
- ・家庭での太陽光発電や小風力発電、営農型太陽光発電など「誰もがエネルギーの生産者」となり、自然エネルギーで自立する島。
- ・豊かさの基準を消費の「量」から「質」、「物」から「心」へ転換させ、持続可能なライフスタイルの実現。
- ・自然の恵みを生かした循環型農業や先端技術を活用したスマート農業による持続可能な地域の実現。

[検討委員会及び意見交換会での主な意見]

- 淡路島は地域資源のポテンシャルが高い（検討委員会）
- エネルギーを使わない暮らしも必要（検討委員会）
- 地域全体を巻き込んだ循環型資源の活用ができればいい（検討委員会）
- 機械やロボットの導入により放棄農地の活用が広がる（検討委員会）

(3) 危機に適応できる島

- ・恵まれた立地環境と資源を活かし、様々な災害の危機に直面しても生き残る「自立した地域」。
- ・小さなコミュニティ単位での共助により災害の危機を乗り越えることが出来る地域。
- ・これまでの河川管理者による治水から、行政・企業・住民等関係者が協働して行う「流域治水」による災害対応。

[検討委員会及び意見交換会での主な意見]

- 災害が起こったときに町内会よりも小さい単位で協力して動くことが必要（検討委員会）
- 災害に対して対策がきちんとできてお客さんを安心して迎え入れることが大事（検討委員会）
- 災害があっても、いつでも復活できるというビジョンを持つべき（検討委員会）
- 災害が起こったときに自分たちの身近で電力がまかなえることは素晴らしいこと（検討委員会）

目標2 “つながり”を大切にする島づくり

地域の人々や、島内外の人が世代を超えてつながる地域。お互いを尊重し、助け合い支え合うことで、子ども、高齢者、障害者が安心して暮らせる地域づくりをめざす。

(1) 多様な人々がともに生きる家族のような島

- ・様々な価値観や知識を持った人がコミュニティに参加し、地域課題への関心・理解を高め、地域住民主体の地域。
- ・高齢者、障害者やその他の社会的弱者と呼ばれる人たちが、居場所と活躍の場所を見つけることができる地域。
- ・地域の間人間関係から孤立させることなく、国内外からの移住者を含め、どんなマイノリティの人でも尊重される地域。（富山型デｲｰﾌﾞｽ、農福連携、空き家のコミュニティハウス化）
- ・隣保という地域共同体が「しがらみ」ではなく「絆」として評価され、互いに助け合うコミュニティの場として確立。
- ・隣人同士が「お互い様の関係」を築き、家族という枠に縛られない安心感や障害者、高齢者がほかの人と平等に生きる社会が実現。
- ・国生み神話に始まる淡路島の歴史と人形浄瑠璃に象徴される芸能や伝統文化、地域の祭りが継承され地域の人々がつながりを持ち続ける地域。

[検討委員会及び意見交換会での主な意見]

- 地域がそんなに動かずに人が交流できる場があれば安心して暮らせる（検討委員会）
- どんなマイノリティの人も受け入れ認め合う社会。人の優しさを重視（検討委員会）
- 伝統文化を日常の中で伝えていくことが大切（検討委員会）
- 高齢者や社会的弱者が暮らしやすい地域。そのベースとなる「つながり」が大事（検討委員会）
- 老人ホームではなく地域まるごとシェアハウスみたいな感じで高齢者が暮らせる（検討委員会）
- 人のつながりの濃さが淡路の良いところ。つながりを活かして地域全体で子育てや介護ができる仕組みづくりができれば（県：若手職員）
- 空き家を利用して地域住民が集まったり遊んだりする場所が必要（高校生）
- スポーツや清掃活動などの地域行事が増え、地域の人たちが仲良く暮らしている（高校生）

(2) 交流する人々が幸せになる観光の島



- ・恵まれた立地環境や食文化や伝統文化など淡路島のポテンシャルを活かした観光を展開し、「住んでよし、訪れてよし」の魅力ある島。
- ・地域の食文化や豊かな農漁業の体験を通して「淡路島の食」を目的とした滞在型観光で地域まるごと楽しめる島。
- ・淡路島の環境や歴史的な伝統文化を活かした持続可能な観光で住む人にも訪れる人にも癒しと幸福が感じられる島。
- ・交通網の利便性が向上し、多様な移動手段で気軽に来られる身近な島。

[検討委員会及び意見交換会での主な意見]

- 魚を目当てに関西や東京から人が来て、最終的に淡路島に住む人が増えればいい（検討委員会）
- 島ということ自体独自の価値がある。観光や移住先としても魅力的（検討委員会）
- 高速道路や橋の料金が安くなり気軽に来られる淡路島になればいい（語る会：洲本温泉組合）
- 淡路島ならではのものを磨き上げて発信していく必要がある（語る会：洲本温泉組合）
- 地域資源を活かした観光施設の誘致が必要（語る会：建設業）
- 明石海峡大橋に路面電車を整備してアクセスをよくすればどうか（語る会：建設業）
- 島外の人と地元農業者が繋がるなど、異業種、異分野の交流のポテンシャルがある（県：若手職員）
- 観光化と住みやすいまちの共存できる仕組みづくりが必要（語る会：いずみ会）

(3) 地域で経済が循環する島



- ・地元企業が業界を超えてつながり、生産（1次産業）・加工（2次産業）・販売（3次産業）を取り込んだ6次産業化による淡路ブランド商品の確立。
- ・生産から販売、さらには観光農園や農業体験、農業ツーリズムなどを加えて、淡路島で新たなビジネスモデルが確立。
- ・趣味農業やワーキングホリデーと組み合わせた「援農」や週末だけ淡路で農業をする「ゆるやか就農」、雇用就農など、多様な形態で就農できる島。
- ・「地産地消」や「エネルギーの自給自足」により、食文化の継承、農林水産業の雇用拡大など、生産から消費まで地域内でお金が循環。（地域内乗数）
- ・都市近郊の自然豊かな立地環境と大規模な産業用地を活用した企業誘致で雇用が拡大。

[検討委員会及び意見交換会での主な意見]

- 担い手を増やすため、雇用就農としての受け皿である会社や組織が必要（検討委員会）
- 豊富な資源を活かし農産物のブランディングなどあらゆる産業の方達が協力して何か1つ形ができればいい（検討委員会）
- 線香などの文化的資源も新たな形に変えていくことで海外向けに発展する可能性がある（検討委員会）
- 半農半業をしたい人が増えている。少し挑戦したり経験したりする場所が必要（検討委員会）
- 島外に出ていくエネルギーに対して支払っている資金を島内でまわす仕組みが必要（検討委員会）
- 田んぼシェアなど、ゆるやかに地域に関わりながら農を営む形が必要（検討委員会）
- 環境はいいが活用できる土地が少ない。規制緩和が進めば起業しやすくなる（語る会：建設業）
- 土地がたくさんあることは何事にもチャレンジできる可能性がある。質の高い暮らしや働き方をめざして島外の企業が工場やオフィスをつくっている（県：若手職員）

目標3 一人ひとりの個性を大切に作る島づくり

やりたいことに挑戦できる。学びたいことが学べる。地域を誇りに思い、自分らしく生きることができる地域をめざす。

(1) 多様な学びの中で人が育つ島



- ・やりたいことに挑戦ができる、やりたい人を応援できるような、地域を支える「人」に投資する地域。
- ・地域を知り、地域を誇りに思い、誰もが地域の魅力を発信できる島。
- ・自然環境や地域での体験学習など島全体が学び場となり、地域の魅力や地域資源を学び、それを活かす教育が充実。

[検討委員会及び意見交換会での主な意見]

- 商売を始めたい人の経済的、社会的支援が増えればいい（検討委員会）
- 自分の地域のことを知り、良さや魅力を発信する（検討委員会）
- 学ぶ場が少ない。地域資源を活かした学びの場、個性を活かす学びの場が必要（検討委員会）
- 最期まで安心して暮らすためには支える人が必要。人に投資、人を大切にする淡路島を目指すべき（検討委員会）
- ゼロからでも再構築するエネルギーを持った人を育てる必要がある（検討委員会）
- やりたいことを形にできる教育が必要（検討委員会）
- 都会の生活は窮屈。農業や漁業など体験学習をさせたい（語る会：主婦）
- オンライン授業が当たり前になる。島内にいながら大学の授業が受けられる（夢フォーラム）

(2) “健幸”の島 淡路島



- ・「幸せ」を目的とした楽しい飲食・仲間づくり・自然体験などが組み合わせられたウェルネスイベントが各地で開催され、地域に住んでいる人にも島を訪れた人にも幸せを与える島。（オーガニックマーケット）
- ・地産地消の食生活や日頃から健康づくりに取り組む島のライフスタイルが生活習慣病をゼロにし、高齢者が健康で活躍できる地域。
- ・地域雇用の増加による職住近接やリモートワークが進み地域内での活動時間が増える。家族や地域、自然と触れ合う時間が増えることでワークライフバランスが実現。

[検討委員会及び意見交換会での主な意見]

- 人口減少・高齢化の中で、健康で長生きにつながる環境づくりが必要（語る会：いずみ会）
- 生産者と消費者が一体となって食材消費、健康に良い食事が広まる活動が必要（語る会：いずみ会）
- 医療が充実して安心して暮らせるようになって欲しい（高校生）
- 安全で健康になる食材が豊富。自然と食文化で100歳まで働ける健康長寿の島（夢フォーラム）

(3) 多様なライフスタイルが実現する島



- ・都市部に近い「島」という立地環境を活かし、情報インフラが整備された仕事と休暇の両立ができるワーケーションの適地。
- ・淡路島での暮らしを楽しみながら農業や趣味に携わるゆとりのある生活の実現。
- ・多様なライフスタイルの実現が、家族や地域に使う時間、リフレッシュする時間につながり、持続的な幸福が実感できる島。
- ・A I や5 Gなどの先端技術を活用し、都市と変わらない便利な暮らしが実現。

[検討委員会及び意見交換会での主な意見]

- どこにいても島内の情報が共有できるようになってほしい（検討委員会）
- 市民サービスを統一し、移住しやすい環境づくりが必要（検討委員会）
- 淡路はユニクロ、イオンなど最低限のものが揃っている。都市部へたまたま買い物に行くのが楽しい（語る会：主婦）
- 県内でもリモートワークの適地。メジャー企業の誘致が必要（語る会：洲本温泉組合）
- 自然が豊かで食材も良い。インターネット環境を整えれば、家族連れで宿泊しながら仕事ができる（語る会：建設業）
- 山間部の高台に良い土地がある。5 Gなどの情報網を整える必要がある（語る会：建設業）

第7章 目標の実現に向けた一人ひとりの役割・行動

目標の実現に向けて住民一人ひとりが身近にできることを意識して行動することが大切。

住民・地域の役割、行動

～豊かな自然・資源を大切にする島づくり～を実現するために

- 自然への畏敬の念を忘れることなく地域資源を生かす
- 自然の豊かさを発信する
- 森、里、海の自然環境の価値をよく知り、価値を損なわない使い方をする
- 地域の自然生物多様性を使った持続的なブランディングをする
- エネルギーを使わない暮らし、自然の豊かさが持続する暮らしを心がける
- 自然エネルギーを自給自足する（太陽光発電の導入等）
- 節水、節電を心がける（風呂水の再利用、こまめな消灯等）
- ゴミを出さない生活をする（マイバッグ・マイボトルの持参、食べ残しをしない）
- 自然を生かした防災、減災に取り組む
- 家具の転倒防止や防災グッズを備える
- まちの清掃・防災活動に参加する

～つながりを大切にする島づくり～を実現するために

- 世代を超えて集える場づくり
- 町内会単位で多世代交流をする
- 近所づきあいの強化
- 田んぼに行くときに近所の家を回る
- 大人と子供の接点をつくる
- 移住者との橋渡しになる

- いじめや差別をしない、させない
- 困っている人を見かけたら助ける
- 他者を尊重する
- シェアハウスのような暮らし方
- まちぐるみで子供を遊ばせる
- 緩やかなつながりをもつ
- 働く姿を見せる
- 家業の継承
- 地産地消を心がける
- 地場産業の物や技術を暮らしに取り入れる
- 食の一押し産品を発信する
- 地元商店を活用する

～一人ひとりの個性を大切に作る島づくり～を実現するために

- 学ぶことの価値を示す
- 地域の中で高齢者を支える人材をつくる
- 伝統芸能や歴史を継承する
- 寺子屋的な場で人材資源を発掘する
- 学校行事へ積極的に参加する（スキルの伝達）
- 栄養バランスを考えた食事をする
- オーガニック食材を育てる・買う・食べる
- 徒歩や自転車での移動を心がける
- コミュニティで自分の役割を見つける
- 多様な働き方、働き場所をつくる
- 残業をしない、休暇を取る

地域団体・企業の役割

- 専門知識やノウハウを活用し、様々な住民を巻き込んだ活動の展開
- 住民同士をつなぐネットワークを構築し、自治組織の支援や住民主体となる活動のコーディネート
- 行政の政策づくりに参画し、協働によるまちづくりを進める
- 企業の持つ特色やノウハウを活かして地域づくりに貢献する
- 地域づくりに参加しやすい社内環境を整える

行政の役割

- 道路や河川の整備など地域づくりの基盤整備
- 地域を担う人材の育成
- 市民活動の支援、情報の提供、住民の行政への参加機会の提供など、住民主導の地域づくりのサポート役としての支援
- 淡路島で統一された行政サービスの提供